＜ユート・ブレーン　ニュースリリース　05年2月追加版＞

世界の医薬品メーカーランキング2004

＜日本メーカー追加速報版＞

2月11日付けで世界の100億ドル以上のメーカーランキングをまとめたが、その後2月19日の日経新聞朝刊にて三共と第一製薬との合併が報じられたので、そのあたりのランキングを追加してまとめた。

医薬品売上はアステラス製薬が上に

連結売上を合計すると、三共＋第一製薬がアステラス製薬よりも上に来るが、医薬品売上を合計したところ、下記のようになった。

2004年世界大手の医薬品売上　　百万ドル　　億ドル

04順	03順	メーカー名	国名	2004	伸び率	R&D費
1	1	ファイザー	アメリカ	**46,133**	17.0%	76.8
2	ー	サノフィ・アベンティス	フランス	**34,680**	10.0%	未公表
3	2	グラクソ・ｽﾐｽｸﾗｲﾝ	イギリス	**33,033**	-5.7%	54.7
4	3	メルク	アメリカ	**22,939**	2.0%	40.1
5	5	ｼﾞｮﾝｿﾝ･ｴﾝﾄﾞ･ｼﾞｮﾝｿﾝ	アメリカ	**22,128**	13.4%	52.0
6	6	ノバルティス	スイス	**21,542**	13.8%	42.1
7	7	アストラゼネカ	イギリス	**20,866**	13.9%	38.0
8	8	ロシュ	スイス	**19,176**	9.7%	38.9
9	9	ﾌﾞﾘｽﾄﾙ･ﾏｲﾔｰｽﾞ ｽｸｲﾌﾞ	アメリカ	**15,482**	3.7%	25.0
10	10	ワイス	アメリカ	**13,964**	10.6%	24.6
11	11	イーライ・リリー	アメリカ	**13,059**	10.2%	26.9
12	13	アボット・ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰｽﾞ	アメリカ	**11,589**	16.3%	17.0
13	14	アムジェン	アメリカ	**10,550**	26.3%	20.3
14	15	武田薬品工業　1-12月	日本	**8,782**	3.2%	12.0
15	15	ベーリンガー･ｲﾝｹﾞﾙﾊｲﾑ	日本	**約81億ドル**	8%	16.0
16	15	アステラス製薬 1-12月	日本	**7,878**	3.6%	13.9
17	15	三共＋第一製薬 1-12月	日本	**7,457**	1.3%	14.2

ユート･ブレーンのまとめによる
為替レートは年末のレートで換算/伸び率は各社公表の数字で、必ずしもドルベースのものではない
R&D費（研究開発費）は、サノフィ･アベンティスは2月下旬発表予定、
J&JのR&D費は全社の費用で、医薬品部門だけのR&D費は3月初め公表予定
武田及び日本のメーカーは公表されている四半期決算から集計したもので、伸び率は04年3月期との比較

ベーリンガー・インゲルハイムは3月下旬以降の決算発表であり、上半期（1～6月）の医薬品売上が8.8%増となっているところから、通期で約8%増と計算すれば、81.5億ドルとなり、15位はほぼ確実となる。

アステラス製薬及び三共＋第一製薬は表の通りで、今期は三共がメバロチンの大幅減であり、1～12月の全医薬品売上が16年3月期の売上より150億円減となったことや、三共は全体の売上の2割程度が医薬品以外の売上のため、両社合計の医薬品売上は、アステラス製薬よりも430億円程度少なくなり、17位となる。

2005/02
©Uto Brain

2003年のメーカーランキングで、20位以内に入っている日本のメーカーは武田だけであったが、合併が実現した後の売上としては、日本のメーカーが3社ランクインすることになる。

本リリースに関する連絡先：大阪本部 永江研太郎
TEL 06-6202-7787/FAX 06-6202-7786 E-mail: international@utobrain.co.jp
住所（大阪本部）：〒541-0045 **大阪市中央区道修町**1-7-10 **扶桑道修町ビル**

お願い：このリリースのデータ等を利用される場合は、必ず、出所（出典）として「ユート・ブレーン」をご記入の上、上記宛に掲載紙をお送り下さい。（掲載箇所の頁をFAXでお送りいただいても結構です。）

参考 ： ユート・ブレーンは、「医薬品産業の国際的事業展開の現状について」など、いくつかの厚生省の委託調査を受けた実績を持つコンサルティング・調査会社です。2001年の世界の医薬品メーカーランキングは、厚生労働省の「医薬品産業ビジョン」で使われています。

2005/02
©Uto Brain